

平成21年度 年報

駒ヶ岳・大沼



【平成22年3月 ボランティアによる森林作業（保育間伐）】

森林環境保全ふれあいセンターは、

国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全に取り組むNPOや森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を技術的に支援する組織として、平成16年4月に設置されました。



国民の森林・国有林

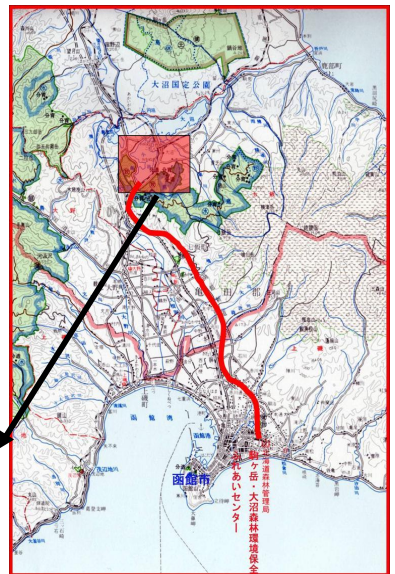
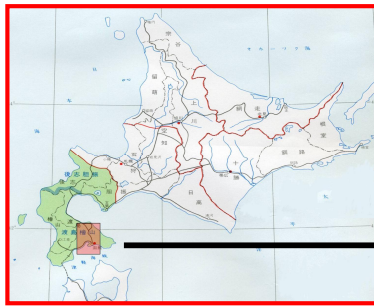
林野庁 北海道森林管理局
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

大沼地域自然再生等モデル事業の取り組み

モデル事業地は、大沼国立公園エリアに所在し、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。

このため、モデル事業の推進について、自然保護関係者や民間ボランティア団体等の代表者で構成する検討委員会を開催し、モデル事業地の箇所を選定、森林の取り扱い、事業の推進方法等についてのグランドデザインを作成するとともに、地域等が大沼地区の国有林に求めているニーズをモデル事業に反映するよう努めることにしています。

「大沼地域自然再生等モデル事業」は、地域住民等と連携し、**「多様性のある森林への再生」**と当該地及び近接地において**「森林環境教育の推進」**を主とし、取り組みを進めることにしています。



- ＝ 検討委員会 ＝
- 平成16年度
グランドデザイン作成のために3回実施。
 - 平成17年度～平成21年度「グランドデザイン」に基づく事業内容の検証及び検討のためそれぞれ2回実施。

☆ 「大沼自然豊かな森づくり協議会」の開催

平成21年4月23日（木）七飯町字大沼において、協議会会員18名が出席し「大沼自然豊かな森づくり協議会」の総会を開催しました。

当日は、「多様性のある森林への再生」（吉野山国有林）箇所において、植栽木の生育状況や間伐箇所等の実施状況をたしかめ、また今年の実行箇所を視察して、今後に向けての意思統一を図りました。現地確認後は、場所を南北海道大沼婦人会館（七飯町）に移動し、宮崎会長（大沼漁業協同組合代表理事組合長）の進行で総会を開催し、自然再生等の各種事業実行に当たり、お互い協力・連携を図りながら取り組むことを確認し総会を終了しました。

★当協議会は、大沼地域自然再生等モデル事業のグランドデザインに基づき、森林の再生活動を行うことを目的として平成17年4月に組織されたものです。



| 協議会参加団体等名 |
|------------------------|
| 大沼漁業協同組合 |
| 大沼町内会連絡協議会 |
| 大沼の水と緑を守る会(NPO) |
| 大沼マイルストーン22(NPO) |
| 北海道森林鳥類調査室クマゲラ研究会(NPO) |
| 函館地方国有林退職者緑の募金推進協議会 |
| 21世紀の道南の森づくり事業実行委員会 |
| 個人会員及び関係行政機関 |

☆ 多様性のある森林への再生

大正14年植栽ドイツトウヒ人工林と昭和56～58年植栽トドマツ人工林、及び昭和27年度植栽カラマツ人工林の22.90haの森林を、地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へ誘導します。【具体的には、周辺の天然林を参考とした森林へと育成します】



ドイツトウヒ人工林



ドイツトウヒ複層伐跡地



針広混交林へ誘導



カラマツ人工林

「多様性のある森林への再生」箇所において、様々な取り組みを行っています。平成21年度の主な実施内容は、次のとおりです。

平成21年5月27日（水）、「大沼自然豊かな森林づくり協議会」主催による自然観察会が、大沼地域自然再生等モデル事業地「樹木博士認定コース」箇所（西大沼国有林）において、ボランティア団体含む14名が参加して実施され、協議会委員である北海道アウトドアガイド（自然）の木村さんに講師役をお願いし、「草本類の観察会」と題し植生の多様性についての勉強会を実施しました。

当日は晴天に恵まれる心地よい日差しの中、木村さんからは、観察会におけるマナーから始まり、各草本が持っている特徴や見分けるポイントなどを分かり易く、また丁寧に一本一本解説して頂きました。また観察会の最中では、クルマバソウやヤブニンジンなどの草花にも心を癒される等、参加者全員が同じ価値観を共有することができました。



クルマバソウとヤブニンジン

平成21年7月8日（水）、森林管理局 次長・計画部長が来所され、大沼地域自然再生等モデル事業地を現地視察されました。初めに、多様性のある森林への再生箇所（吉野山国有林）を、次に森林環境教育の取り組みを行っている樹木博士認定常設コース（西大沼国有林）をそれぞれ視察され、今後の活動に向けての助言を頂きました。



平成21年7月8日（水）、「大沼地域自然再生等モデル事業」の「多様性のある森林への再生」箇所において、協議会主催による下刈作業を予定しましたが、悪天候によりやむなく中止となりました。

作業地は吉野山国有林（七飯町）の大正14年植栽ドイツトウヒ伐採跡地で、平成18年度にミズナラ（ドングリ）・トチノキなどの実を約7万個播種した箇所（面積：0.22ヘクタール）での作業を計画していたところであり、当日集まったメンバーからは、残念がる声が聞かれ、当センターとしては、皆の有り難い気持ちを胸に、後日（8月2日）、心を込めて下刈作業を実行しました。



成長した
ミズナラ

作業は、当センターで企画している「森林づくり塾」の塾生が実行しました。

国際ワークキャンプは、世界の若者が2～3週間一緒に暮らし、住民達と、環境・文化保護、福祉、農村開発などに取り組む、国際ボランティアプロジェクトです。これを3か月の長期で行うキャンプを「中長期国際ワークキャンプ」といい、北海道では唯一、七飯町字大沼で行われています。この大沼地区には、ここ数年、ワークキャンパー達が集まり、環境保護をテーマとした森林作業や大沼の水質保全、周遊道路の清掃等の取り組みを実施しており、今年も7月20日から10月7日までの期間、アメリカ、台湾、日本からの3名の若者が、たくさんの人との出会いや交流を深めながら、各種ボランティア作業を実施するため、ここ大沼に集合しました。

当ふれあいセンターが担当した森林ワークでは、吉野山国有林のモデル事業地においては、トドマツ人工林の枝払い・下刈作業や道路補修（敷砂利・横断排水ゴム板設置等）など、環境保護を目的とした活動を実施しました。

また、8月30日から及び9月24日からのそれぞれ2週間は「大沼国際環境ワークキャンプ（短期キャンプ）」も実施され、計14名の青年達（フィンランド、ポーランド、オーストリア、中国、韓国、日本の6カ国から参加）が森林作業の環境ボランティア活動を行い、同じ価値観を共有し、汗を流しました。



キャンパーに概要説明



参加したキャンパー

PHOTO

下刈作業



枝払い作業



道路補修（敷砂利）作業



道路補修（横断排水溝設置）作業



平成21年12月7日（月）に、南北海道大沼婦人会館（七飯町）において、各委員18名の参加のもと、「第1回大沼地域自然再生検討委員会」を開催し、今年度実施したモデル事業地での取り組み内容等について意見交換を行いました。

各委員からは、「事業地内のトドマツ人工林について、計画的に間伐を実施し、少しでも早く針広混交林に誘導を」、「森林施業を行う際には野生動植物へ配慮した事業の展開を」などといった、自然再生に向けての様々な意見や要望が出されました。今後は、今回出された貴重な意見を当モデル事業に反映させるよう、各委員や地元住民と連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています。



平成22年3月12日（金）、大沼地域自然再生等モデル事業の箇所（吉野山国有林2133林班）において、「大沼自然豊かな森づくり協議会」による、ボランティア団体約28名の参加により、人工林の保育間伐を実施しました。

作業地は昭和57年度に植栽されたトドマツ人工林（面積：0.60haの一部）で行い、胸高直径は8cmから太いものでは16cmに達しているものもあります。参加者は時折雨が降るあいにくの天候にもかかわらず1本1本丁寧に、また安全にも配慮しながら伐倒・枝払い等の作業を一生懸命に行い、「多様性のある森林への誘導」という目標に向け、心地よい汗を流しました。



☆ 森林環境教育（樹木博士認定会）の推進

西大沼国有林の**樹木博士認定常設コース**（平成16年10月オープン）を拠点とし、森林に対する関心と理解の醸成を図る活動を実施しています。

具体的には、森林環境教育の指導者の養成等のための**樹木博士認定会**の開催や研修会等を実施し、森林環境教育を推進します。また、多様性のある森林への再生活動（吉野山国有林）においても森林環境教育を実施することとしています。

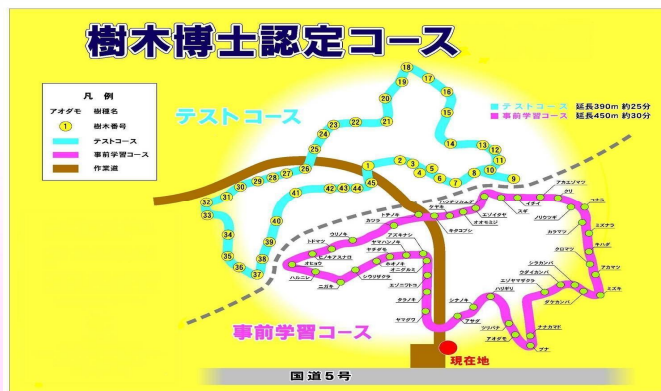


樹木博士認定会とは

樹木の名前や識別方法を学習した後、樹木名を答える試験を行うもので、それをきっかけとし、森林に親しんでもらうことを目的とした森林環境教育（アウトドア活動プログラム）のひとつです。

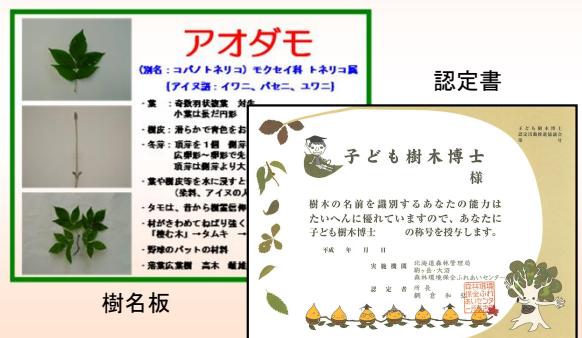
樹木博士認定コース

子ども樹木博士認定活動推進協議会（平成12年設立 現会長：木平勇吉東京農工大学名誉教授）のプログラムを採用し、平成16年には、この活動を地域に広めることと森林環境教育に関する指導者の養成を図るための活動の拠点として、誰でもいつでも利用できる「常設コース」を大沼国定公園内の西大沼国有林（七飯町）に開設し、対象者を子ども達だけではなく一般にも広げ、毎年**定期的（年4回）**に開催しています。



進め方

1時間程度の樹木の説明を受けた後、樹種名（20～30種）を答える試験を行い成績に応じて段級（**最高位は10段**）を与え、認定書を授与します。



コース概要

- ◆ コースの距離 事前学習コース [450 m]
テストコース [390 m]
周 遊コース [2050 m]
- ◆ 試験 樹 種 46種（ブナ・ミズナラ・スギなど）



左写真はセンターで作成した「樹木ガイドブック／全58ページ」（平成20年発行）

このガイドブックにより、樹木の説明を行います。



平成21年度の樹木博士認定会の取り組みについては、公募により4回（5月，7月，8月，9月）の定期開催を実施しました。また、より多くの挑戦者の参加を期待して、函館市教育委員会で取り組んでいる生涯学習講座「HAKODATEまなびっと広場」に参画し、選択科目の一つとなっています。

定期開催の開催結果の内容については、次のとおりです。

第1回開催

第2回開催



第1回は、参加者15名の内、小学生は3人参加。対象樹木は、20本を選定し、スタートしました。

第2回は今年度最高の19名の方が参加しました。



第3回開催

第4回開催



第3回は、全樹種の46本に挑戦する参加者もいました。

第4回は、最高位10段を取得されている松田さん（函館市在住）に説明をお願いして進行しました。



本年度の定期開催の参加者総数は52名であり、中には10段を取得された参加者も数人現れるなど、有段者の方がたくさん増えました。

● 定期開催結果

| 回数 | 認定会日時 | 参加者 | 内 訳 |
|-----|---------------------|-----|-----------|
| 第1回 | 5月17日（日）10：00～12：30 | 15人 | 子ども3、大人12 |
| 第2回 | 7月20日（日）10：00～12：30 | 19人 | 子ども2、大人17 |
| 第3回 | 8月 9日（日）10：00～12：30 | 13人 | 子ども1、大人12 |
| 第4回 | 9月13日（日）10：00～12：30 | 5人 | 子ども0、大人 5 |

● その他開催

| | | |
|-----------------------------------|------|------------|
| その他開催（江差北小学校グリーンスクール・しりうち緑の少年団ほか） | 137人 | 子ども89、大人48 |
|-----------------------------------|------|------------|

● 樹木博士認定状況

| | |
|----------|--------------------------------|
| 21年度末 累計 | 1,559人（平成12年度の旧函館分局から行ってきた計です） |
|----------|--------------------------------|